

# 第5学年道徳科学習指導案

令和7年11月10日

校名	A校	B校	C校	合計
児童数	1	2	1	4名
指導者	T2	T2	T1	3名

授業者 (T1) (T2) (T2)

主題名・内容項目	「本当の自由とは」・A-(1) 善悪の判断, 自律, 自由と責任
本時のねらい	ジェラルとガリユーの自由に対する考え方の違いについて話し合い, 「自由」の成立条件を考えることを通して, どんな自由を実現していくべきかを見極める道徳的判断力を育成する。

## 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

A-(1) 善悪の判断, 自律, 自由と責任(小学校学習指導要領解説書 特別の教科 道徳編より)

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
よいことと悪いこととの区別をし, よいと思うことを進んで行うこと。	正しいと判断したことは, 自信をもって行うこと。	自由を大切にし, 自律的に判断し, 責任ある行動をすること。

(2) 子供の実態について

子供たちの実態を把握するために Google フォームにて事前アンケートを行った。その結果から考察すると, 自由とは, 「自分のやりたいこと」と捉えている傾向にあることが分かった。子供たちが, ある程度のきまりの基に自由が成り立つことは理解しているが, 具体的に自由の限度や範囲, 自由を大切にすることについてまで捉えている子供は多くない。

(3) 教材について

本教材は大きく二つの場面で構成されている。一つは, 自分の思いのままに行動することが自由であると思っているジェラルに, 森の番人ガリユーが諭すが, ジェラルは全く聞き入れず, ガリユーを牢屋に入れてしまうという場面。もう一つは, その後, ジェラル自身が, 国内の乱れがもとで, 囚われの身となり, 改めて本当の自由の大切さについて考えるという場面である。

ジェラルの考える自由とガリユーの考える自由を比較させ, 「本当の自由」について考えさせるとともに, 自由の大切さだけでなく, 自由と責任の関係, 自由であるための規律ある行動の意義について考えることのできる教材である。

## 研究の視点に関する活動について

視点1 個別最適な学びを充実させる取組	視点2 協働的な学びを充実させる取組	視点3 遠隔合同授業の体制の構築
<ul style="list-style-type: none"> <li>子供一人一人に切実な問題意識をもたせるために, 道徳アンケートを事前に行い, 活用する。また, その結果を基に, 子供たち一人一人が自分のめあてを設定する時間を設定する。</li> <li>子供たちが本時で学んだことを自覚し, 自分の生き方に生かしていけるようにするために, 「道徳の振り返りのこつ」を共有ホワイトボードに掲載し, 常に意識したり, 参考にしたりできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供たちが互いの考えに対して, 反応できるようにするために, 心情円やリアクションカードを活用させる。</li> <li>話し合い活動を円滑に行えるようにするために, 道徳科だけではなく, 他教科等でも同じように話し合いを行わせ, 教科横断的な対話の設定を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3校が円滑に道徳科学習を行えるようにするために, 年度当初に学習の進み方カードを配布した。年度はじめの道徳科学習では, 学習の展開について見通しをもてるようにするために, 学習の進め方カードを黒板に掲示した。</li> <li>子供たちが, 道徳科学習についてどんなことを学習したのか, 他校の担任が把握できるように, 道徳日記を書くように習慣づける。</li> </ul>

## 本時の指導にあたって

本主題の指導を展開するにあたって, まず, 導入において子供たちに「自分が自由にできることがあるとすれば, どんなことをしたいか」と発問し, 一人一人が考えている自由に対する考え方の明確化を図る。そして, 本時の主題である「本当の自由」と自分の考えを比較させ, 切実な問題意識をもたせる。次に展開前段において, 教材中のジェラルとガリユーの自由に対する考え方の違いに着目させ, 「本当の自由」の成立条件について話し合わせる。そして, 展開後段において, 本時で学んだ「本当の自由」に対する見方・考え方をもとに, 導入で子供たちが考えている自由が「本当の自由」に適合するのか, 適合しないのであればなぜ適合しないのかについて考えさせ, 「自由と責任」に関わる生き方について考えさせる。最後に, 学んだ内容や本時の学び方について振り返る場面を設定し, 子供が自分の課題を発展させることができるよう留意しながら学習を展開していく。

## 本時の実際

過程	学習活動の流れ	時間	指導上の留意点 ○教師の手立て ※評価
導入	<p>1 自由について発表し、「自由」に関する問題意識を高める。</p> <p>「本当の自由」とはなんだろう。</p>	5分	<p>○ 本時の学習問題を焦点化するために、子供たちの「自由」に関する経験について想起させる。その際、事前に行ったアンケートを活用する。また、「自由にできるなら、どんなことをしてみたいか。」と発問し、本時の主題と関連付けながら問題意識を高める。</p> <p>【目標の明確化】</p>
展開	<p>2 教材「うばわれた自由」から「自由と責任」に関わる生き方について話し合う。</p> <p>(1) 朗読データを聞く。</p> <p>(2) 教材の中で考えていきたい場面について話し合う。</p> <p>・ ジェラル王子がガリユーの言うことを聞かなかったところです。</p> <p>・ 王子がわがままだったことです。</p> <p>・ ガリユーの言っている「本当の自由」とはなんだろう。</p> <p>(3) ジェラルとガリユーのそれぞれの自由について考える。</p> <p>・ ジェラルの自由は、人に迷惑をかけている。</p> <p>・ ガリユーの考えている自由は、きまりを守る自由。</p> <p>・ ガリユーの自由は、あとのことまで考えている自由</p> <p>(4) ガリユーの言う「本当の自由」とジェラルの自由の違いについて話し合い、「自由」の成立条件について考える。</p> <p>3 本時で学習した「本当の自由」についての見方・考え方・感じ方を基に、導入において考えた経験やこれからの生活について、捉え直す。</p>	35分	<p>○ 本時の主題である「本当の自由」についての考えを明確にするために、登場人物について紹介したあとに朗読を聞かせる。</p> <p>○ 子供たちの主体的な学びを促すために登場人物や問題場面の状況を確認したあと、「この物語で話し合っていきたいこと何か？」と発問し、本時の話し合っていきたいことを焦点化する。</p> <p>○ 「本当の自由」について多面的・多角的に考えさせるために、対話活動を設定する。その際、ワークシートを活用して、ジェラルとガリユーの自由について一人で考える時間を設定し、その後、対話活動を設定する。また、ガリユーとジェラル王の自由について板書を構造化し、「本当の自由」の成立条件について、子供たちの考えを整理、分類していく。</p> <p>【山場の工夫】</p> <p>※ 自由について、ジェラルとガリユーの考え方を基に多面的・多角的に考えることができる。</p> <p>発 ジェラル王の自由とガリユーの考えている自由は何が違うのだろう。</p> <p>○ 価値の自覚化を図るために、導入で子供たちが発表した「自由に関する考え方」を、本時で明らかにした自由の成立条件と照らし合わせる。その際、「あなたが考えている自由にしたいことは、本当の自由と呼べるのだろうか。」と発問する。</p> <p>※ 本時の学習で学んだ「本当の自由」の成立条件を基に、これまでの自由に対する見方や考え方について捉え直している。</p>
終末	<p>4 学習の振り返りをする</p>	5分	<p>○ 本時で学んだ「自由と責任」に関する見方・考え方・感じ方を基に、新たに気付いたことや自分の生き方に生かしていきたいことなどについて振り返らせる。</p> <p>【確かめ・見届け】</p>

## 評価

- ・ 「自由と責任」に関する見方・考え方・感じ方を基に、自己の生き方に生かそうとしとしている。
- ・ 「本当の自由」について多面的・多角的に考え、成立条件を基に、自身の考えている自由について、自分が実現していきたい自由について考えている。